令和 8 年 10 月 6 日

下記の通り記載内容に誤りがありましたので、謹んで訂正し、お詫び申し上げます。

「ニューマチックケーソン工法施工マニュアル、令和 8 年 5 月」正誤表（1/2）

頁	項目	誤	正
5-34	5.13 コンタクトグラウト	ケーソン基礎においては，設計上，基礎周面のせん断地盤反力度を評価しているため，ケーソン沈設後，側壁周面にコンタクトグラウトを行わなければならない.	ケーソン基礎の設計では，コンタクトグラウトの有無により基礎部周面の地盤反力係数の評価[9)]が異なる．そのため，設計上考慮している場合は，ケーソン沈設後，側壁周面にコンタクトグラウトを行わなければならない.
6-17	表-6.3.1 工程算出に必要な主な条件 適用範囲・国土交通省土木工事積算基準 適用範囲・日本圧気技術協会積算資料 沈下掘削工・国土交通省土木工事積算基準 沈下掘削工・日本圧気技術協会積算資料	 ・有人掘削 ・有人掘削，無人掘削 ・酸素減圧の有無 － － ・酸素減圧の有無 ・掘削方法（有人掘削 or 無人掘削） －	 削除 削除 削除 ・有人機械掘削 or 無人機械掘削 ・1 日（2 組）or 1 日（1 組） 削除 ・有人機械掘削 or 無人機械掘削 ・1 日（2 組）or 1 日（1 組）or 1 日（3 組）
6-17	（2）各工種の実施工日数　2）沈下掘削工	Dc：1 日（2 組あるいは 1 組）当りの掘削量（m3・地山／日），「国土交通省積算基準，第 2 編 4 章④ニューマチックケーソン工，表 8.2」に，掘削面積，作業気圧，酸素減圧の有無により数値が示されている．作業気圧は，本施工マニュアル 2.6 式（2.6.2）により求める. β ：土質による補正係数，「同上，表-2.6.1」による.	Dc：施工 1 日（2 組あるいは 1 組）当りの掘削量（m3・地山／日），「国土交通省積算基準，第 2 編 4 章④ニューマチックケーソン工，表 8.2，8.4，8.6，8.7」に，掘削面積，作業気圧，有人機械掘削・無人機械掘削により数値が示されている．作業気圧は，本施工マニュアル 2.6 式（2.6.2）により求める. β ：土質による補正係数，「同積算基準，表 8.3，8.5」による.

令和 8 年 10 月 6 日

「ニューマチックケーソン工法施工マニュアル、令和 8 年 5 月」正誤表（2/2）

頁	項目	誤	正
6-17	（3）供用日数の算出	「国土交通省土木工事積算基準，令和 7 年度版」には，「設備等の供用日数は，積上げて算出することを原則とする.」とあり，供用日数算出係数は示されていない.「ニューマチックケーソン工法積算資料，日本圧気技術協会，令和 7 年 4 月」では，供用日数算出係数 $\alpha=1.5$ を標準としている．$\alpha=1.5$ は，工事期間の土曜・日曜日，祝祭日，夏季休暇，年末年始休暇を考慮したものである.	「国土交通省土木工事積算基準，令和 8 年度版」には，設備等の供用日数の算出方法が示されており，供用日数算出係数 $\alpha=1.54$ を標準としている．標準とは，休日に土曜日，日曜日，祝祭日，年末年始休暇および夏季休暇を含んだ工事としている.
6-24	参考文献	4）令和 7 年度版 国土交通省土木工事積算基準，建設物価調査会，2025.5	4）令和 8 年度版 国土交通省土木工事積算基準，建設物価調査会，2026.5
参-6	表-参 2.1 掘削面積が大きいニューマチックケーソン	7 城北中央公園調節池（一期）工事その 3 5 号ケーソン 10 城北中央公園調節池（一期）工事その 3 3 号ケーソン	7 城北中央公園調節池（二期）工事 5 号ケーソン 10 城北中央公園調節池（二期）工事 3 号ケーソン